

筍を抱へてあれば池に雨

田中裕明（『花間一壺』）

田中裕明が住んだ山崎や長岡京は、筍の産地である。そのためか、「竹落葉」「竹の皮脱ぐ」「若竹」「筍」などは例句が多い。掲句は裕明二十代前半の句を納めた句集より引いた。

筍を抱えることと雨が降ることとは何の因果もないのであるが、「あれば」と接続されるとまるで筍を抱えたから雨が降ったかのようでもある。立派な筍を抱えて雨に濡れている姿は少しく滑稽でもある。後年、『夜の客人』には〈雨なれば筍掘の無口なる〉とも詠まれている。